

【ESD学習支援活動】

奈良市立東市小学校 野外活動 支援報告書

国語教育専修 学部2回生 丸本まりな

1. 実施日 平成29年9月27日(水)～28日(木) ※支援は9月27日(水)のみ
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター(奈良市阪原町25-1)
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣徹
特別支援教育専修 学部3回生 藤井愛華
国語教育専修 学部2回生 丸本まりな
奈良市立東市小学校 第5学年児童26名(男子14名、女子12名)、教員5名他
4. 活動支援内容

平成29年9月27日(水)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立東市小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生がその支援に参加した。1日目は主に、グリーンオリエンテーリングと野外炊飯、キャンドルサービスが行われた。学生は、オリエンテーリングでは各ポイントに立ったり、最後に出発した班の最後尾に付いて見守ったりした。野外炊飯では、子どもたちと火おこしを行い、キャンドルサービスでは、ゲームを一つさせていただいた。雨が予想されたため、キャンプファイヤーがキャンドルサービスになるという変更があった。また、野外活動センターの近隣でスズメバチの巣が発見されていたが、被害を受けることなく1日目を終えることができた。



昼食の準備の様子

今回の野外活動支援を通して学んだことを三つ述べる。一つ目に教師と児童の関わり方について、二つ目に情報を共有の大切さについて、三つ目に学生の野外活動スキルの向上についてである。

一つ目の、教師と児童の関わり方についてである。学年の人数が少なく、5年間同じクラスで過ごしているため、子どもたちは非常に仲が良かった。また、お互いを思いやることのできる子どもたちだった。今回の支援では、先生が児童を指導している場面を見る機会が多かったが、その関わりが思いやりの心の育成につながっていると感じた。児童に何か問題が起こったとき、先生は、周りの児童や班の中での役割について考えさせたり、相手の気持ちを考えさせたりしていたのが印象的だった。

二つ目の、情報共有の大切さについてである。オリエンテーリングの際は、複数の先生方が連絡を取り合い、子どもたちが安全に活動できるよう、見守り合っていた。主体性を大切にしつつ、安全確保のために離れたところから子どもたちの状況を把握することは、一人の先生では難しい。先生同士での情報共有は、オリエンテーリングに限らず、非常に重要なことだと思った。

三つ目の、野外活動スキルの向上についてである。野外炊飯の火おこしの際、なかなか薪に火がつかないという事態が発生した。どのような季節や天気でも、安定して火を起こせるようになるためには、経験とスキルを積んでいくことが不可欠である。また、キャンドルサービスに関しても、キャンドルサービスに適したゲームなどを追及していく必要がある。

以上が今回の支援で学んだことである。これらの学びを活かし、今後も活動していきたい。